

食育を通して自分のくらしを見つめ直す総合的な学習の時間 第5学年
白山市立明光小学校・教諭**1 事例の概要**

本校の総合的な学習の時間は、「自然」「文化」「人」の3つを柱として、児童の身近な生活に根付いた教材の開発を心がけている。このような地域教材は、自分の足で何度も調べられるばかりでなく、地域に生きる一人としての自覚や地域を愛する心情を育むことにもつながるものである。

食育のテーマは、自分自身の食生活を見直すことに直結するだけでなく、家庭での消費活動を見直すこと、ひいては環境問題にも広がるテーマと言える。子ども達を取り巻く問題として“栄養バランス”“食品添加物”“食習慣病”“遺伝子組み換え食品”“食と森林破壊”の5つを取り上げた。児童は、これらについて調べ、まとめ、それぞれの調べ活動で得た情報をともに交流することを通して、自分の食生活について見直す機会を得たようである。自分で知った事実を自分だけにとどめるだけでなく、「食育フォーラム in 明光」の場を自分たちで設定し、食の専門家との交流を通して、正しい食生活のあり方を確固たるものとしていき、レポートにまとめ上げた。

食と健康、食と環境との密接さに気づき、これからの食生活を見直し楽しんでいこうとすることができる価値ある本教材を生かすために、課題意識が持続し、自分の見方・考え方が広がり深まる学習活動の工夫、自らのあり方を見つめ直すことができる評価活動のあり方の工夫を心がけた。

A-1 つけたい力**A-2 教科等との関連****2 実践内容****(1) 単元の目標**

- ・自分を取り巻く食生活ならびに食の問題に関心を持ち、進んで食育に関する問題点や健康な食生活のあり方について調べようとするができる。
- ・正しい食生活をする事が、自らの健康保持だけでなく環境にやさしいくらしにもつながることについて考えることができる。
- ・食育にかかわる様々な問題や健康的な食生活のあり方について、インターネットや参考文献で調べ、視覚的に分かりやすくまとめ、自分なりに正しいと考える食生活のあり方についてレポートの形で伝えることができる。
- ・食育にかかわる諸問題や正しい食生活について調べ活動や食育の専門家との交流などを通して、食育の大切さを理解するとともに、自分の今後の望ましい食生活のあり方について理解することができる。

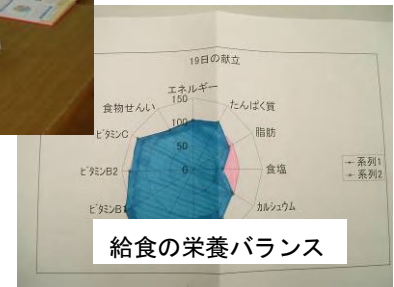
(2) 指導上の工夫点

- ① 課題意識が持続し、自分の見方・考え方が広がり深まる学習活動の工夫
 - ・身近な素材を生かす
 - ・体験的な活動を生かす
 - ・多くの見方・考え方にふれる場の設定の工夫
- ② 自らのあり方を見つめ直すことができる評価活動のあり方の工夫
 - ・自己評価・相互評価・教師による評価の効果的な活用
 - ・外部評価の活用（栄養士の方より 保護者の方より）

B-1 指導上の工夫点

3 指導の実際

- ・自分のおやつとそれを取り巻く環境課題との遭遇 —第1次—
- ・食を取り巻く環境問題への追求 —第2次の1～9時—
- ・自分の食のあり方を見つめる (のび太と自分の食事の比較) —第2次の10時—
- ・今注目される和食のよさの再発見 (玄米食と根菜汁との出会い) —第3次—
- ・生き生き食育レポートへの取組と評価 —第4次—



C-1 指導案(単元計画)

C-2 指導案(本時)

4 成果と課題

(1) 成果

この食育の実践を通して次のような変容の姿が見られた。

- ① 給食で野菜を食べる子が増えてきたこと
- ② 購入してきたお菓子などの成分表を見る子が増えたこと
- ③ 保護者で玄米食を取り入れる家庭がでてきたこと
- ④ レポートに書くことを意欲的に取り組んだこと (食に関してインプットした情報を自分の学びに変えて楽しみながらアウトプットできるようになってきたこと)
- ⑤ 環境問題に対して意識が高まってきたこと

①～③の姿から、「ふり返る力」がついてきたと考える。これは本研究の視点であるところの「身近な素材」であるおやつや給食などを取り入れたこと、さらに玄米・根菜汁の食体験を取り入れたことが、変容の大きなきっかけとなったと考える。自分の食生活を前向きに変えていこうとする姿勢がレポートの内容を見てもうかがえる。

④の姿から、「情報をまとめる力」「分かりやすく表す力」「分析考察する力」がついてきたと考える。これは本研究の視点「多くの見方・考え方にふれる場の設定の工夫」の成果である。テーマ別の調べ活動の場、ポスターセッションの場、ビデオ教材や食育プレゼンテーションなどの場を設けることにより、食に対する情報を蓄え、自分なりに咀嚼し、レポートに書き込んだ。この一連の活動を子どもたちは時間を厭わずのびのび生き生きと楽しみながら取り組んでいた。

⑤の姿から、「課題を見つける力」もついてきたと考える。地球温暖化や森林破壊、砂漠化など、広い視野で環境を見ていこうとする子どもが増えてきたからである。

(2) 課題

外部評価をもっと他に広めることができたかもしれない。さらなる意欲が期待できるので、学んだことを全校や地域に広める工夫があってもよかった。また、レポートへ向けて手紙による交流など保護者との交流をあと1～2回とるなどして、表現力のあまり得意でない子への支援ができればよかった。さらに、自分たちだけで「食」を作る場面を設けることをすべきだった。その体験が親の苦労や安いものを買いたがるわけを理解することにもつながるからである。

これらの課題の大きな原因は、時間的な事由によるものが大きい。学年末の様々な行事が差し迫り、なかなかこれらの課題をクリアすることができなかった。やはり綿密な計画と見通しが必要であったことを痛切に感じている。

D-1 児童の感想

D-2 ポスターセッション

D-3 わくわく食育レポート